

問題の調節にせよ若しくはドイツが斡旋の勞を執らんとしてゐるに傳へられる日ソ不可侵條約問題にせよそれ以上の意味を有し、いはゞ同盟關係を意味するものと解されてゐることである、獨ソ不可侵條約にしても單なる不可侵協定とは解されてゐない、無論米國の識者は日ソ關係が一部に傳へられてゐる如くしかく單純なものでなく少くとも日本に於てはヒツトラー總統がなした如き百八十度の展開は絶對出來ないものとなしてゐるけれども日本陸軍の間に尙對獨關係に於て清算し切れないものがありはしないかこの疑惑は依然として残つてゐる、

秘

内閣情報部九・一五 情報第七號

重慶ロイテル新聞電報放送(十一日) (朝鮮總督府遞信局聴取)

ロイテルが信頼すべき外人筋より確聞するに日本軍はノモンハン地區でソヴェト軍のため大敗を喫した、假借なきソヴェトの攻撃に於て日本軍は二萬五千の死傷者を出しソ軍は多數地點にて越境したといはれる。この情報はノモンハン戦線訪問後北平へ到着した許りの有名な米紙通信員の長文電報を根據とするものである。同米人通信員によればノモンハン戦線のソ日軍戦闘勃發後ソヴェト側は大規模な反撃のため靜かに軍隊、砲兵、空軍、機械化部隊を同方面に集結してゐた、集結完了するやソ軍は新式の戦車や砲の掩護を受けて猛攻撃の火蓋を切つたのである、この戦闘で日本軍は二萬五千の死傷を出し、ヘルヘ河東岸の日本陣地は總崩れとなつた、ソ軍はヘルヘ河東岸の失へる陣地を回復した許りか、多數地點にて越境して餘程の滿洲國領を占領した、前線の日本軍指揮官は非常に氣力を挫かれたので「日本軍部は國境紛争の平和的の^{解決}ためモスコウ政府と交渉することを切望してゐる」と主張してゐる。この情報は北支外人筋より報道によつて各方面から裏書されてをり、之等は日本軍の大移動、北支殊に山西省南部よりの撤退及び滿洲への乘車について報じてゐる。日本側が反撃乃至は今後のソ軍進撃に備へるため滿洲の駐屯軍を大急ぎで